

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	垂水市立水之上小学校									
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	12	
児童数	18	17	15	17	16	17	0	100		

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の定着を図り，学ぶ楽しさや算数のよさが味わえる授業の充実 ～ 個に応じた指導や学習形態の工夫改善を通して ～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

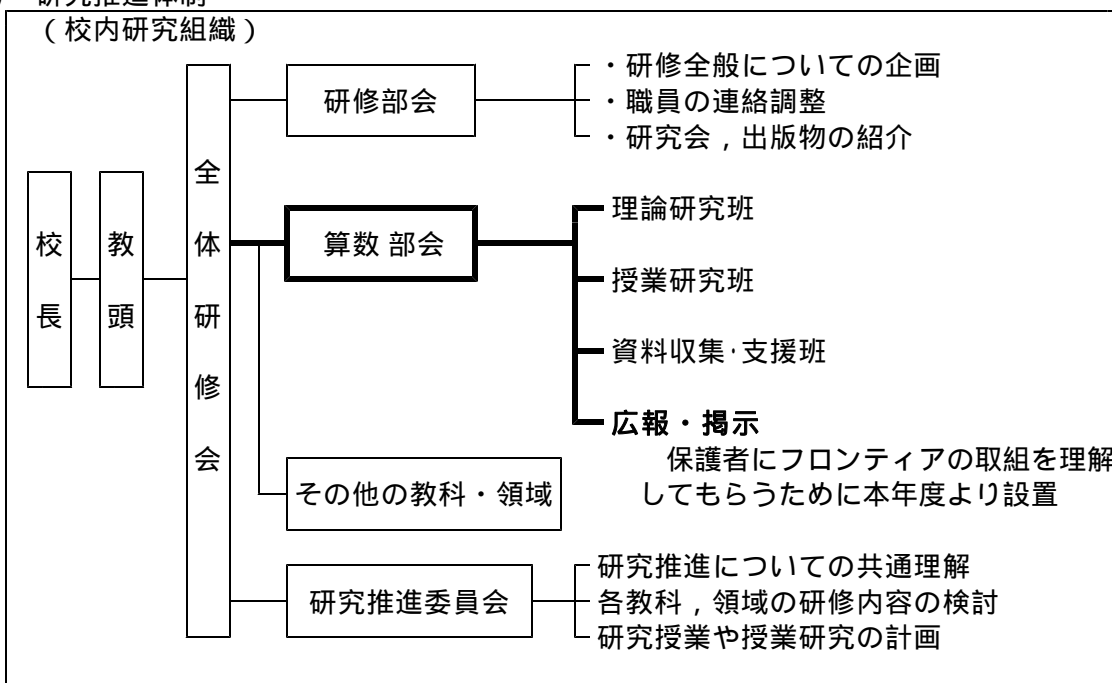
算数を中心に，1年～6年のTTによる指導や習熟度別指導などを実施。 NRTの結果を分析した結果，3年，4年，5年の内容に落ち込みが多く見られたので，この3学年は，他の学年よりも週1時間多く実施。
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 『基礎・基本の定着を図り，学ぶ楽しさと算数のよさが味わえる授業の充実～「数と計算」領域の指導を通して～』 仮説 (1) 教材分析を十分に行い，育てたい力を明確にしながら個に応じた指導法を工夫していけば，基礎・基本を確実に定着できるのではないかと。 (2) 学習過程を工夫し，児童が主体的に活動できる場を設定すれば，学ぶ楽しさや算数のよさが味わえるのではないかと。 研究の内容・方法 (仮説1について) ・児童の実態調査と分析 ・「育てたい子どもの姿」の設定 ・算数的環境整備の充実 ・基礎学力を向上させるための実践活動 ・評価と支援の在り方についての研究 ・家庭・地域との連携 (仮説2について) ・児童の実態に応じた発表話型の作成・掲示 ・基本的な学習過程の確立 ・学習の心構え及びしつづけの徹底 ・学習形態の工夫
	テーマ 『基礎・基本の定着を図り，学ぶ楽しさや算数のよさが味わえる授業の充実～個に応じた指導や学習形態の工夫改善を通して～』 仮説 (1) 評価規準に照らした教材分析や開発を行い，育てたい力を明確にしながら個に応じた指導法を工夫していけば，基礎・基本を確実に定着できるのではないかと。 (2) 学習過程や学習形態を工夫し，児童が主体的に活動できる場を設定すれば，学ぶ楽しさや算数のよさが味わえるのではないかと。 研究内容・方法 ・単元に合った学習形態の工夫 ・算数の時間の評価についての研究 ・広報活動の充実(学力向上に関する学校の授業の取組や成果の紹介など) NRTの結果から，「数と計算」領域以外にも落ち込みが見られたので，全領域にわたって研究を深めることにした。

平成16年度	<p>テーマ 『基礎・基本の定着を図り，学ぶ楽しさや算数のよさが味わえる授業の充実 ～学習したことを生活に生かせる児童の育成をめざして～』</p> <p>仮説 (1) 教科書の指導内容と授業時数とを考慮した指導計画の工夫に努めれば，基礎・基本を確実に定着できるのではないか。 (2) 学習したことを生活の中に生かせるような取組をさせることで，学ぶ楽しさや算数のよさが味わえるのではないか。</p> <p>研究内容・方法 ・ 自己評価・相互評価の工夫・改善と活用 ・ 授業中の教師の評価の仕方とその後の生かし方の統一 ・ 補充及び生活に密着した発展学習（問題）の具体的な取組 ・ 教科書の指導内容の中身と授業時数とを考慮した指導計画の研究</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 算数に関する児童の意識面等の実態調査（7月）で、「算数が好き」と答えた児童は，昨年の62%から今年は80%に上昇した。この数値的な変化から，算数好きな児童が育ってきていることが分かる。
- ・ 一学期の校内研究授業（3年・4年）では「つかむ段階」，二学期の校内研究授業（2年・6年）では「解決する段階」，3学期の校内研究授業（1年・5年）では「深める段階」と研究の視点をしぼることで，それぞれの段階で考えられる学習形態の工夫に取り組むことができた。
- ・ 低学年では，教室の算数コーナーの掲示をヒントにして学習を進めていく児童が増えてきて，何とか自分で問題を解決しようという姿勢が見られるようになった。
- ・ 学力向上に関する保護者のアンケートの結果（7月）では，毎月一度発行する算数便り「キラキラ kids！」を95%の保護者が読んでいるという結果があった。また，本校が取り組んでいる算数の研究について83%の保護者が理解しているということからも，「キラキラ kids！」の広報活動としての効果があり，保護者にも浸透してきているといえる。

## 2. 今後の課題

- ・ 授業中の評価の仕方とその後のかし方の統一を図り、担任が効率よく評価を行い、その後の指導に生かせるようにしていく必要がある。
- ・ 補充及び生活に密着した発展学習（問題）の具体的な取組を行い、個に応じた指導の充実をより一層図る必要がある。
- ・ 教科書の指導内容と授業時数とを考慮した指導計画の研究を深め、本校の児童の実態に合った学習が展開できるようにする必要がある。
- ・ 学習したことを生活の中に生かせるような取組をさせながら、算数を学ぶ楽しさや算数のよさが実感として味わえるようにする必要がある。

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・ N R T 標準学力テストの実施（4月）
- ・ N R T 標準学力テストで落ち込みのあった内容の確認テストの実施（11月末）  
4月のN R Tの結果で特に落ち込みのあった内容の定着具合を把握するため
- ・ 暗算力テストの繰り返し実施（チャレンジや復習タイムに実施）  
タイムの向上により、児童に自信をもたせるため
- ・ 学期末テストの実施（学期ごと）  
その学期に習った学習内容の定着具合を児童自身に把握させながら、その後の指導に生かすことで、確実に定着を図るようにするため

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 垂水市学力向上推進協議会主催の提供授業として、6月13日に4年算数「角」の習熟度別少人数指導を実施  
垂水市内の小中学校からの参加だったので、水之上小学校で取り組んでいる暗算力テストを各学校にフロッピーで1枚提供することができた。
- ・ フロンティアスクールとしての本校の取組をホームページで公開している。
- ・ 垂水市学力向上推進協議会の実施
- ・ 小中連携の広報部の活動として、各学校でホームページの作成をし、フロンティアスクール関連の内容の充実に努める。（平成16年度～）  
アドレス（<http://edu.pref.kagoshima.jp/es/mizunoue/>）
- ・ フロンティアスクール研究公開  
（平成16年7月2日、垂水小学校、垂水中学校、水之上小学校）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】      15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】       6学級以下      7～12学級  
                         13～18学級      19～24学級  
                         25学級以上

【指導体制】       少人数指導       T・Tによる指導  
                         一部教科担任制       その他

【研究教科】      国語      社会       算数      理科  
                         生活      音楽      図画工作      家庭  
                         体育      その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有      無